

## 留学育英生からのたより

イギリス・ロンドン在住

第12回育英生 清水 晶子

理事長 黒田 武志(大圓)先生

先生にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃるでしょうか。お伺い申し上げます。

さて昨年四月にロンドンに参りましてからのご報告を申し上げます。ロンドン大学キングスカレッジでの神学宗教学部のPhD課程の第一年目も半ばを過ぎフリードヘレム・ハーディー教授の指導のもと順調にプロジェクトに取り組んでおります。博士論文のテーマとして現在のジャイナ教における戒律と宗教的実践の乖離の問題ということについて考えております。今秋はインドのデリーに赴きジャイナ教徒の日常生活を直接観察調査する予定でおります。これまでハーディー教授とはジャイナ教の場合と比較するため、南方の仏教徒の生活を文献と照らし合わせて詳しく調査した資料を読んできました。

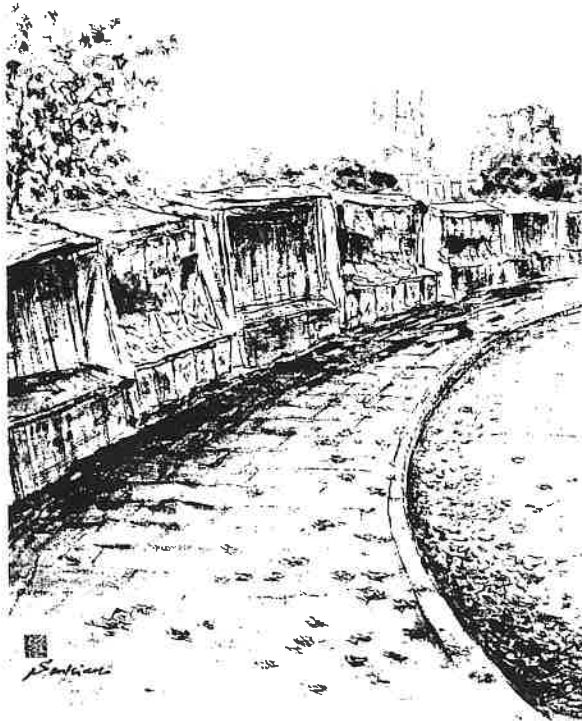
今学期よりジャイナ教の説話集カターコーシャとあわせてフィールドワークにそなえて、特にアメリカの人類学者達による新しいETHNOGRAPHYの方法に関して学んでおります。また昨年九月よりロンドン大学のアジア・アフリカ研究所(SOAS)で中級ヒンディー語のコースに通っております。インドで人々にインタビューするにはまだまだ力不足ですが毎週の宿題におわれながら何とか落ちこぼれないように続けております。

英国での滞在も二年近くになりました。理事長先生をはじめ育英会の皆様方には多大なるご援助をいただきまして充実した留学生活を送らせていただいております。

心よりお礼を申し上げます。今後共どうぞ宜しくご指導下さいま

すようお願い申し上げます。

時節柄御自愛と御健康をお祈り申し上げます。



## 留学育英生からのたより

イギリス・ケンブリッジ大学

第13回育英生 山口菜生子

拝啓 黒田先生、育英会の皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

私の大学の三年の課程もようやくあと半年弱を残すばかりとなりました。異文化のシステムのなかで、文字通り右も左も分からず、ただ目の課題をこなせるかどうかと不安に圧倒されつつ無我夢中になって勉強しているうちに、いつの間にか過ぎていった二年半でした。全寮制というシステムのなかでの教師陣や友人たちとの緊密な交流をベースにした異国での大学生活は、私に新しいものを目のあたりにする驚きを、日々もたらしてくれました。これまで味わったことのない世界を身をもって体験する喜びは、しかしまた、自分の足場を失う危機感と隣り合わせでもあり、自分の勉強の動機や方向性が異質な世界に呑み込まれて失われてしまうのではという不安が胸にわだかまっていくなを、日々感じてまいりました。しかし、最近その分裂が、異質の文脈を学ぶなかで自分の場所を確かめ、なおかつこれを表現するという喜びとなって感じられるようになり、これは私にとって何よりも嬉しいことです。また、当初は歯が立たないと思われた課程をこなし、ともかく卒業のめどが立ったということ自体、いまだに信じられない奇跡のような気がいたします。振り返ってみると、大学のプログラムやカリキュラムの充実ぶりには目を見張るものがあり、此処で勉強できたことの幸せをあらためて深く感じています。

このように多くのものをもたらしてくれた大学生活を支えて下さった黒田先生、育英会の皆様にはとても感謝しております。本当に

ありがとうございました。

最後に、卒業後もここに残って新しい課程にすすみ、さらに自分の場所を確かめたいと考えていることを、ご報告させていただきます。

皆様のご健康と益々のご発展を心からお祈りしております。

敬具

